

〔八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

特産園芸作物の病害虫防除対策

～八丈島におけるクロスジイラガの発生活長～

野口 貴・菊池知古・坂本 彩・大林隆司*

(島しょセ八丈・*生産環境科)

【要 約】八丈島におけるクロスジイラガの羽化時期は10月下旬～12月上旬、孵化時期は11月上旬～12月上中旬、蛹化時期は3月中下旬と推定する。12月の幼虫防除においては、ステージの異なる幼虫が同居している点を考慮する。

【目 的】

八丈島管内で発生しているイラガ類の幼虫は、特産のフェニックス・ロベレニー（ロベ）や常緑樹を食害する害虫として知られている。2019年11月に青ヶ島および八丈島で行った成虫捕獲調査でクロスジイラガが同定されたが、八丈島における本種の発生活長は詳しく調べられていない。そこで、成虫の発生活長および孵化時期を把握し、今後の防除対策の一助とする。

【方 法】

2020年9～12月に所内の敷地2ヵ所に誘蛾灯を設置し、成虫の捕獲調査を行った。誘蛾灯は、週あたり2夜設置し、1夜あたりの誘引数をその週の値として示した。また、午後5～6時（夕暮れ時）にガラス窓に飛来する成虫を捕獲し、その後の産卵の様子を確認するとともに、野外で産卵や孵化状況の調査を行った。

【成果の概要】

1. 誘蛾灯を用いた調査で、成虫の誘引を確認したのは10月第4週であり、11月第3週にピークを認めた。12月第3、4週では確認できなかった（図1）。
2. 夕暮れ時に捕獲した成虫を観察すると、翅の濃淡にバリエーションが認められた（図2 a）。捕獲された成虫の一部は2日後に、乳白色で長さ1.5mmの卵を産卵した。卵数は1頭あたり120～170個（3頭調査）で、産卵が2日間にわたるケースもみられた。
3. 野外調査の結果、卵はツバキなど常緑樹やロベの葉（小葉）の裏面に1個ないし2～3粒ずつ産み付けられていた（図2 b）。なお、乳白色のほか、黒変した卵も多数見つかった。卵内の幼生体を取り出し顕鏡したところ、体内にアルカリ可溶性の無数の顆粒があったことから、ウイルス性の病変と推定した（図2 c d）。
4. 野外での幼虫初確認は11月第2週であった。孵化は室内で産卵後4～5日、野外で7日程度を要した（図2 e f）。孵化後は盛んに摂食活動を行い、5日後には約1.5倍の体長に達した（図2 g）。
5. 2020年の3月中下旬に蛹化を確認している。以上の結果から、羽化時期は10月下旬～12月上旬、孵化は11月上旬～12月上中旬、蛹化は3月中下旬と推定する（図3）。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 本島で同様の被害を与えるイラガ類がほかにいないか、引き続き調査を行う。
2. 孵化期間が1ヵ月に及ぶ上、その後の成長が早いことから、防除にあたっては、様々なステージの幼虫が同居している点を考慮する。

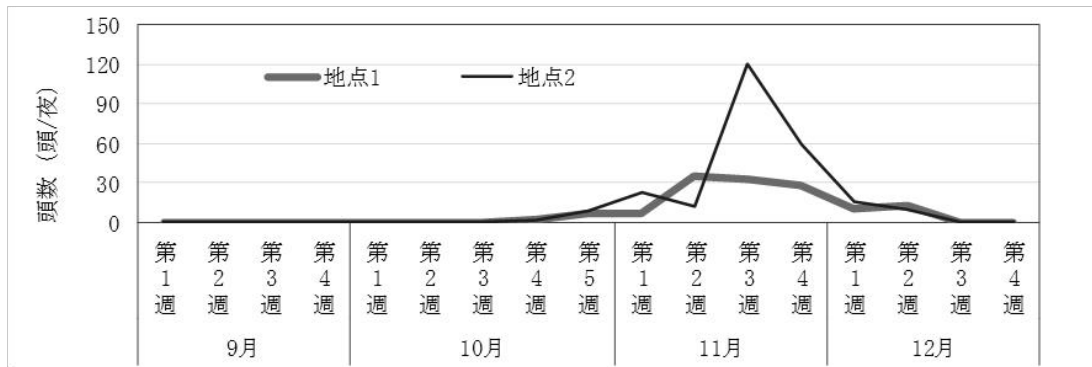


図1 イラガ類成虫の誘蛾灯誘引数 (2020年9~12月)
 (誘蛾灯は各週2夜設置し、1夜あたりの誘引数で示した。
 地点1: 農林合同庁舎東、地点2: 農林合同庁舎西ヤシ園)

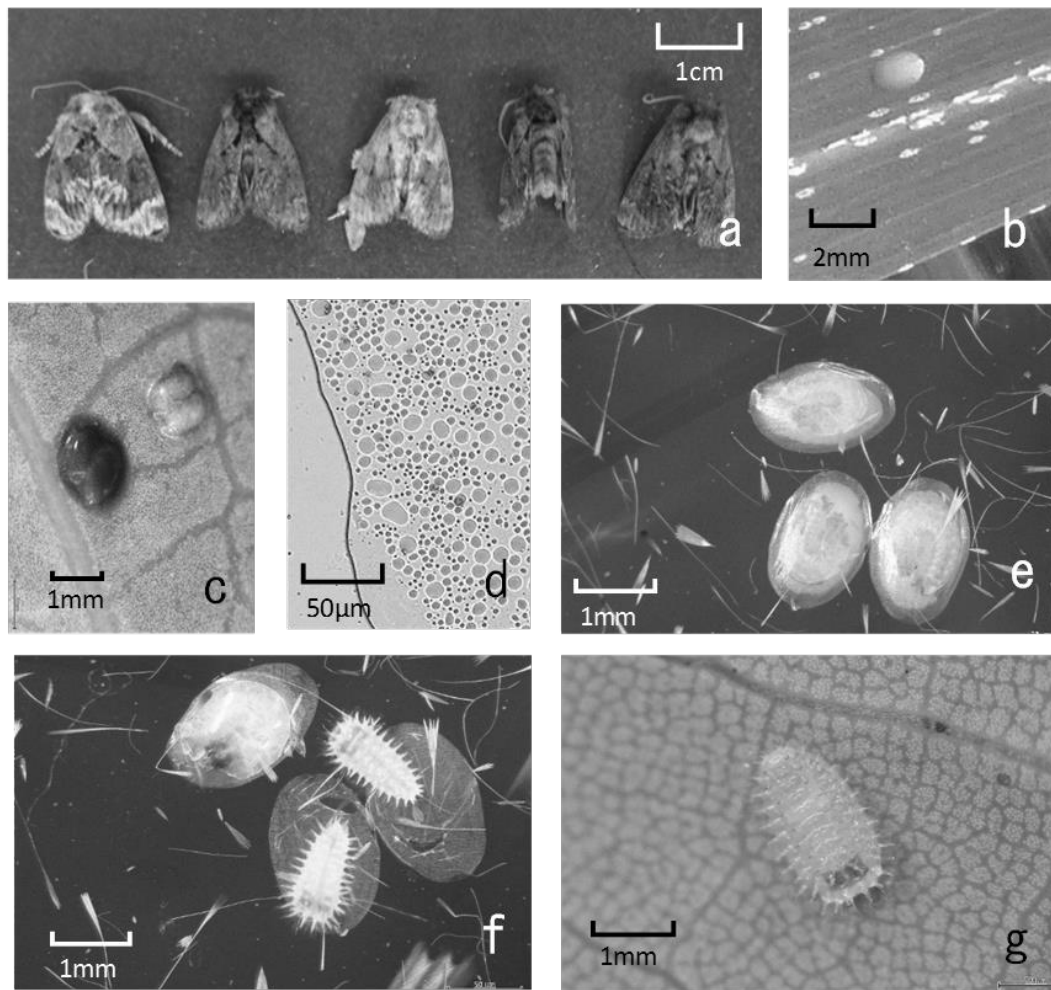


図2 イラガ成虫と産卵後の孵化
 (a: ガラス窓に飛来したクロスジイラガ, b: ロベの葉裏に産み付けられた卵, c: 黒変した卵, d: 黒変卵幼生内の結晶体, e: 産卵4日後 (室内), f: 産卵5日後の孵化 (室内), g: 孵化5日後の幼虫 (室内))

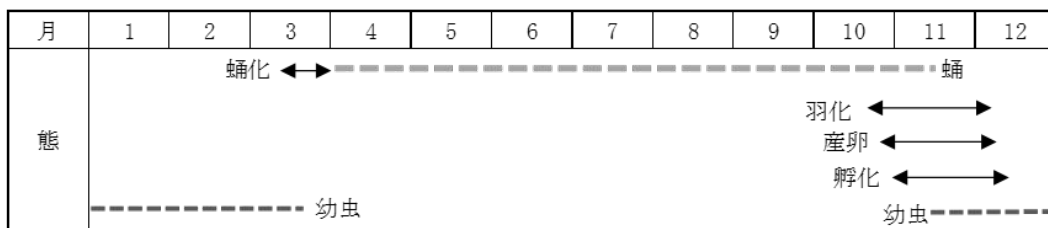


図3 八丈島におけるクロスジイラガの生活史 (推定)